

研究所だより

目 次

長柄町の教育を考える	1
千葉県算数・数学教育研究大会長生大会	2
研修を終えて(初任研, 中堅研)	3
令和5年度長期研修生研究報告	4~6
教育功労表彰	6



ふるさと長柄町の教育と今後に向けた思い (長柄町の教育を考える)

長柄町教育委員会 教育長 石川 和之

1 はじめに

長柄町は、1955(昭和30)年4月に、長柄村・日吉村・水上村の3村が合併して発足した。千葉県中央部に位置し、豊かな自然、やさしい陽ざし、風の音、花の香りなど、四季の変化が間近に感じられる。



<長柄ダムの桜>

現在、町内には、1こども園・2小学校・1中学校があり、保護者・地域社会・関係機関等と連携しながら児童生徒の育成に取り組んでいる。

2 長柄町教育の基調と基本目標

(1) 教育の基調

心身共に健康で思いやりのある生き生きとした人づくり

(2) 基本目標(抜粋)

子どもたちが自立して多様な人々と協働し、創造力を発揮しながら社会で豊かな人生を送ることができるよう、生きて働くための「知識及び技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、学びを人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の3つを柱とした資質・能力の育成を図る。

3 指導の重点=「豊かな心」の育成

豊かな心の育成は、すべての教育活動を通じて行われるものだが、とりわけ、特別活動と道徳の時間が大きな役割を果たすと考える。ここでは、町内各校の取組を一つずつ紹介したい。

(1) 日吉小学校の道徳への取組

学習指導要領には、道徳の目標と取り扱うべき内容が明示され、教科書をベースに、関連する適切な教材を活用して、授業が展開されている。道徳の授業では、特定の価値観を児童生徒に押しつけたり、主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育の目指す方向とは対極にあるものと言われている。

各学校においては、管理職、道徳教育推進教師を中心に授業研究が行われ、効果的な指導方法及び指導内容について、繰り返し検討がなされている。令和6年11月に、関東ブロック小学校道徳研究大会が、日吉小学校で開催され、多くの方が長柄町を訪れる。現在、日吉小ではこのイベントに向けて、授業研究を繰り返し、職員のスキルも大きく向上している。多くの方が足を運ばれ、この大会が有意義に終了することを切に希望するものである。これを契機に、長柄町のみならず、多くの地域において道徳教育が更に充実し、子どもたちの「豊かな心」の育成が推進されることを期待している。

(2) 長柄小のしめ縄づくり

毎年12月に、総合的な学習の時間を活用して、地域社会特に社会福祉協議会の指導の下、しめ縄づくりに挑戦している。ものづくり、地域の大人の方々とのふれあい、伝統と



文化に触れることにより、豊かな心が涵養される。

(3) 長柄中学校における千葉大学への留学生を招いた語学研修

今年度は、9か国の留学生から、それぞれの母国の文化や風土等を学ぶ。留学生との交流は、生徒にとって有意な機会となっている。



<メキシコからの留学生の講座>

(4) 教育長の出前授業

私自身、各校に赴いて心の教育を微力ながら展開している。今年度は、小学校3・6年生、中学校2・3年生を対象とした。キャリア教育も視野に入れながら、様々なメッセージを送った。

- 「明けない夜はない」
- 「ありがとうの大切さと重み」
- 「大好きなものを見つけよう」
- 「それぞれのペースで一歩ずつ」
- 「自分のことを見つめ直そう」
- 「あいさつはできていますか」等。



<日吉小6年生への授業>

4 特別活動への思い

「学校時代の思い出は？」この質問に対する回答は多いか。簡単な調査をした結果、部活動と特別活動、そして少しだけ〇〇先生の授業であった。特別活動の中でも学校行事が多くあげられている。授業が思い出という回答が少ないのは残念であるが、実は教師にとっても特別活動が一番思い出になっているのではないか。文化祭・体育祭・卒業式等の学校行事や学級活動等、児童生徒及び教師にとってある意味特別なものなのであろう。特別活動は、「生きる力」の育成に大きく貢献するものである。コロナ禍で、様々な制約がある中、各校では創意工夫された特別活動が展開されたと考える。今後も「豊かな心」の育成の原動力として、特別活動が有意義に展開されることを祈念している。

5 おわりに

長柄町には、児童生徒数の減少への対応、アフターコロナにおける教育活動全般のあり方、さらなる自己肯定感の高揚、中学校の部活動指導の今後のあり方、GIGAスクール構想とこれまでの教育の効果的な結合など多くの課題も山積している。

令和の日本型学校教育は、2020年代を通じて実現を目指すものであり、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目標とする。その柱は、学習指導要領の着実な実施と考える。これまでの日本型学校教育の成果と課題を踏まえつつ、学校における働き方改革や、GIGAスクール構想などの新たな動きも加速・充実させながら、これまでの成果も継承し、双方の良さを生かして改革に取り組むべきである。

長柄町は、今後も他の市町村と連携しながら、子どもたちの健全育成に取り組んでいく所存である。

第55回 千葉県算数・数学教育研究大会長生大会

「数学的活動を通して数学のよさを実感する授業づくり」

長生教育研究会算数・数学教育部会

令和5年10月31日、「第55回千葉県算数・数学教育研究大会」を、茂原市立豊岡小学校、茂原市立本納小学校及び茂原市立本納中学校を会場に開催しました。

長生地区での大会は、平成13年の第33回大会以来の22年ぶりの開催でした。また、令和2年印旛大会中止、令和3年八千代大会、4年安房大会はオンライン開催であり、対面での開催は、4年ぶりでした。開催方法の検討を重ね、コロナ禍を経て、対面と配信のハイブリット形式での研究大会といたしました。

大会当日は、県内各所から算数・数学教育に携わる200名を超える参加者がありました。

1 研究主題

「数学的活動を通して数学のよさを実感する授業づくり」

このテーマには、「児童生徒の学習意欲を向上させ、算数・数学への肯定的な態度を育成したい。」という思いが込められています。児童生徒に数学のよさを実感させるには、どのような数学のよさがあるのかを授業者が予め確認し、それらを明らかにする数学的活動を授業に位置付けることが必要と考えました。そこで、授業づくりのポイント(『創造の視点』)を以下のようにしました。

創造の視点

- ◀単元を計画する際に▶
 - 数学のよさを的確に捉えて、指導計画に位置付けておくこと
- ◀授業を計画する際に▶
 - 視点① 一人一人が解決に取り組める適度な難易度のある課題、社会や文化とのつながりを意識した課題を準備すること
 - 視点② 考えを出し合い高め合う場を充実させること
 - 視点③ 体験的な場を設けて、どの子も数学のよさを実感できるようにすること
 - 視点④ 振り返る場を設けて、数学を活用しようとする意欲をもつようにすること

2 授業展開

豊岡小学校、本納小・中学校において、以下の通り授業を展開しました。

豊岡小学校

- 第3学年「分数」 小池のどか教諭
- 第4学年「面積」 牧野内和樹教諭
- 第6学年「場合を順序よく整理して」 齊藤 弘樹教諭

本納小・中学校

- 第6学年「比例と反比例」
 - (本納小) 中村 陽介教諭
 - (本納中) 堀井 柚里教諭
- 第2学年「一次関数」 江澤亜矢香教諭
- 第3学年「関数 $y = ax^2$ 」 河野 克哉教諭

授業は、特に重点とする視点を設定し、展開しました。

《視点①》小4



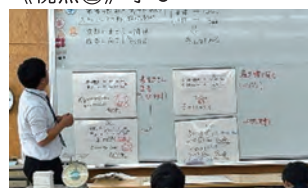
《視点①》中3



《視点②》小3



《視点②》小6



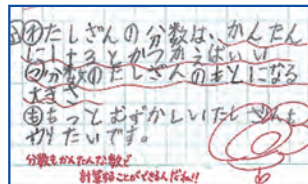
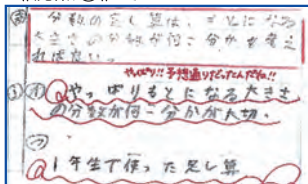
《視点②》中2



《視点③》小6



《視点④》小3



3 全体会・記念講演・分科会

全体会では、東上総教育事務所長 酒井誠一様を始め、多くのご来賓にご臨席賜りました。

引き続いて行われた記念講演では、文教大学 教授 永田潤一郎氏に「普段の授業で思考力、判断力、表現力等を育むための数学的活動の授業デザイン」という演題でご講演をいただきました。永田教授の示された「6つの視点に基づく授業デザイン」は、長生大会で研究してきた授業段階ごとの「創造の視点」と重なる部分が大きく、大変、多くのことを学ぶことができました。

午後からの分科会では、千葉県内各支部から36提案があり、小学校・中学校それぞれ6分科会が開かれました。久しぶりの対面での研究協議では、白熱した議論が行われました。

4 終わりに

参会の方から「参考になった」との感想もいただきましたが、課題も明らかになりました。私たちは、これからも研究・研鑽を深め、よりよい授業づくりに真摯に取り組んでいきたいと考えます。本大会の開催にあたりご指導を賜りました皆様をはじめ、多くの関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

研修を終えて(初任研, 中堅研)



初任者研修を終えて

茂原市立本納中学校
教諭 堀井 柚里

私は初任者研修を通して視野を広くし、学び続ける姿勢をもつことや、情報共有を行うことが大切であると、強く感じました。

まず、視野を広くもつことについては、様々な研修を通して講師の先生方から多くのことを学び、自分には知らないことが沢山あると、実感しました。

例えば、「異校種交流」では、小学校や高校、特別支援学校の初任者の先生方と話し、勤務形態や子どもの様子が校種によって大きく異なることを知りました。加えて、子どもと積極的に関わるなど、大事にしていることは同じであるという共通点を見つけ出すこともできました。

そして、「体験研修」では、茂原樟陽高等学校に行かせていただき、授業観察を通して中学校数学との関連性に気付くことができました。他にも、実際に生徒と一緒に樹木の伐採活動を行ったことで、農業・工業高校がどのような雰囲気であるか、身をもって学びました。

さらに、「他校研修」として茂原中学校で1日研修をさせていただき、物を置く位置や、掃除への取り組み方、廊下の掲示物など、いろいろな面で本校と異なる点が多く驚きました。その学校が何を重視するかによって、指導方法も変わることを学びました。

他にも、初任者研修を通して様々な講義を受講しましたが、中でも特に印象に残っているのが、数学科の「教材研究と指導法の工夫」についての講義です。この講義では、具体的な教具を提示していただき、その単元の中でどのように使うことができるのか、またその教具によってどのようなメリットがあったのかを学び、大変勉強になりました。私も実際に紹介があった教具を使って授業をした結果、生徒からの反応も良く、課題への正答率も高かったため、学んだことを実践する意義を感じることもできました。

次に、情報共有を行う大切さについては、どの研修でも「子どもと、保護者と、他の先生方と、関係機関と情報を共有することが大切である」とお話を受けました。特に中学校は教科担任制であるため、日頃の学校生活において、情報共有が重要であると感じています。

また、研修をきっかけに同じ教育事務所の同期と、授業の行い方や学校に関する些細な悩みについて話す機会が多くありました。そのおかげで、悩んでいるのは自分だけではないという安心感を抱くことができました。

このように、私は初任者研修を通して、講師の先生方から、数多くのことを学ばせていただきました。また、普段学校であった何気ない話を共有できる同期と出会うことができました。

しかし、まだ研修を通して学んだことのすべてを消化できていません。そのため、今後学級担任になったり、いろいろな校務分掌に就いたりし、様々なことを経験する中で、初任者研修の内容を振り返りながら、学び続けていきます。



中堅教諭等資質向上研修を終えて

白子町立白湯小学校
教諭 鎌滝 未希

今年度、中堅教諭等資質向上研修に参加させていただきました。1回の集合研修、3回のeラーニング研修を中心に、授業研修、体験研修、課題解決研修など充実した研修の中で、中堅教諭としての自覚と実践的な指導力を高めることができました。

総合教育センターでの集合研修では、「千葉県のICT教育の現状と課題」のご講話をいただきました。現在の日本の子ども達は、授業でデジタル機器を使う時間が世界ワースト1位であるという現状を知りました。しかし、ICTを活用することで、以前は紙で行っていた学習を短時間で効率的に行うことができ、何より「意見の交流がしやすくなる」という利点を学びました。学校のみドルリーダーとして授業で効果的にICTを活用し、「主体的で対話的な学び」を実践していきたいと思います。その後の班別協議では、実際にICT機器の機能を用いてグループで意見の交流やまとめを行いました。実際に使ってみることで、良さや難しさを実感することができ、「こんな授業の場面で使ってみよう」となどの構想も浮かんできました。ICTの講話を受けた後に、実際にICTを使って班別協議をするという研修の流れは、私たちにとても実践的で充実した、実りのある研修となりました。

さらに、同じ悩みをもつ中堅教諭の皆さんと顔を合わせて「自己の課題解決」に向けた意見交換をすることができたことも貴重な経験でした。住む場所や、学校の規模、担当する学年も違う先生方とのお話は、とても刺激になり、新たな発見がありました。それぞれが設定した課題解決に向けて、自校での実践を話したり、今までの経験からアドバイスをしたり、活発に意見交換をすることができました。

また、班別協議の中では、仕事と家庭の両立も必要であるという話題になりました。グループの先生方が全員女性の先生で、皆さん家庭をもち、同じ悩みを抱えていました。中堅の先生方の中に「働くママさん先生」の仲間が多くいると知り、勇気をもらいました。私自身、2度の産休と育休をいただいて、2児の子育てをしながら働いています。育休明けの今年度は、子どもが何度も体調を崩し、一緒に働く先生方をお願いをすることが増え、仕事と家庭の両立がうまくできずに悩みながら働いていました。仕事にかけられる時間が以前よりも減りましたが、マイナス面だけではなく、自分も親になったことで、保護者の気持ちがよく分かるようになりました。また、時間が限られているからこそ、効率的に仕事をする事の大切さを感じました。今はまだ難しいですが、子育てが落ち着いた時に、学校に恩返しをしたいと思っています。

本年度の研修を終えて、中堅教諭の私ができることは、新しく学んだことを学校現場で発揮し、子育ての経験を生かして保護者に寄り添い、若い先生とベテランの先生との橋渡しをしていくことだと思いました。本研修のためにご講話やご指導をくださった皆様に深く感謝申し上げます。

令和5年度長期研修生 研究報告



〈国語科〉

睦沢町立睦沢中学校

教諭 西谷 真澄

(研究主題) 情報を関連付け考えを形成する読むことの学習指導
～「英雄」を論じるテーマ読書を通して～

研究主題について

全国学力・学習状況調査の結果から、情報と情報を関連付けて読むことや、考えの形成とその表現に課題があることがわかった。これらの課題を解決するために、複数テキストを扱うテーマ読書の手法を取り入れた単元を開発した。主体的に選書して読書し、複数の作品を読み比べたり重ねて読んだりしながら、論点を立ててテーマに基づいた論を書く活動を通して、読書に関する知識や技能、情報を関連付けて読む力、考えを形成して表現する力を育てることを目指し、本主題を設定した。

研究目標

主体的に選書して読書し、複数の作品を読み比べたり重ねて読んだりしながら、論点を立ててテーマについて論じる活動を通して、読書に関する知識や技能を育て、情報を関連付けて読む力や、考えを形成して表現する力が育まれることを明らかにする。

授業の概要(第2学年)

- 「考え聞かせ」によるモデル学習
教師の読み方をモデルとして示す「考え聞かせ」を継続して行い、情報を関連付けて読むことのイメージをもたせ、読む活動に繋げた。
- ICT等を活用した個別の学習支援
複数の見本を提示したり、ICT等を活用した「書くこと」の支援を行ったりすることで、生徒それぞれの学習をサポートし、考えを引き出し、テーマについて論じられるようにした。



単元計画

研究の成果と課題

- 成果
論点を立てて複数の本を比べて読むなかで、生徒はテーマに引き付けて情報を関連付けて読むことを意識し、叙述を引用したり、考えの根拠を述べたりしながら、構成を工夫して自分の考えを論じていた。読書単元を開発することで、生徒が目的をもって選書する力を高め、情報を結び付けてわかったことを論じながら、自分の考えを形成・修正し、表現する力の育成につながった。
- 課題
効果的な読書単元を行うには、生徒の読書習慣の違いを考慮する必要がある。そのため、小学校と連携した継続的かつ系統的な読書指導の在り方について見直す必要がある。また、教材を個々で選択した際の学習支援の在り方や評価の仕方についてはさらなる研究が必要である。



〈体育科〉

茂原市立萩原小学校

教諭 永野 和哉

(研究主題) 体育ポートフォリオを活用したゴール型ハンドボール学習の研究～児童に自己の伸びを実感させる手立てに着目して～

研究主題について

これまで、簡易化したボールゲームのルール作りや場、教材教具の工夫により、児童一人一人が夢中になって運動に取り組むことができる授業の実現を目指してきた。どの児童にも一定の技能向上が見られる一方で、運動を苦手とする児童の診断的・総括的授業評価をみると単元前後で「できる(運動目標)」の数値に変容は見られなかった。そこで、毎時の学習内容が明確で自己の思考、判断の変容や学習履歴の振り返りがしやすいポートフォリオを作成し授業に取り入れようと考えた。本研究を通して体育科の学習にポートフォリオを取り入れた学習過程が児童の技能向上の実感にどのような影響があるのかを検討したいと考え、本主題を設定した。

研究目標

中学年ゴール型ハンドボール学習において、体育ポートフォリオを活用した学習過程が児童の技能向上と自己の伸びの実感に及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果と課題

- 成果
 - 児童の記述をKH Corderを用いて分析した結果や診断的・総括的授業評価の数値に変容が見られたことから、体育ポートフォリオを用いた学習過程が、中学年のハンドボール学習においてどの児童に対しても有効な手立てとなり、知識の定着や技能向上を実感させることができた。特に下位児童において有効な手立てとなることが示唆された。
 - 形成的授業評価が高い水準で推移していることやサポート適切率が向上していることから、体育ポートフォリオを用いた学習過程や本実践で扱った教材が、ボールを持たないときの動きに対する戦術的判断力の向上につながり、上位、下位児童に共通して「知識・技能」を身に付けさせるための有効な手立てとなることがわかった。
- 課題
 - 体育ポートフォリオの使用中に、指導者の意図しない問題や授業の進行困難な状況が発生した場合、本時の学習過程に課題が生じる可能性がある。
 - 児童用の一人一台端末を活用したデジタルポートフォリオの導入を検討することで、児童の進捗や学習状況に合わせた、より効率的な個別指導が可能となることが期待される。



体育ポートフォリオ



体育ポートフォリオ(教師用)



体育科学習指導案

令和5年度長期研修生 研究報告



〈小学校 外国語科〉
茂原市立本納小学校
教諭 佐々木 有紀子

(研究主題) 中学校へつなぐ書くことの指導
～個に合った文字指導と

小中連携による言語活動を通して～

研究主題について

これまでの指導が、小学校の音声中心の学習から、中学校の文字の学習への接続をスムーズに行えていないことに課題を感じた。個人差が大きく、小中の段差となっている「書くこと」において、個に合った文字指導と、相手意識をもった言語活動を小中連携によって行うことで、児童の書く力を育成することができると考え、本主題を設定した。

研究目標

「書くこと」において、個に合った文字指導と、小中連携による言語活動を取り入れた授業をし、その指導効果を検証する。

検証授業の概要(第6学年)

1 個に合った文字指導

文字指導の帯活動を Alphabet Time として位置づけた。どの習熟度の児童も意欲的に「書くこと」に取り組むことができるワークシート・教材の作成をした。児童が自ら課題を見つけ、それを解決するために何をどのように取り組んだらよいかを自分で考えながら行える文字指導を行った。

2 小中連携による言語活動の設定

同一学習ターゲット(過去形)を設定した単元を2単元通して行った(図1)。児童が「書くこと」においても相手意識、目的意識をもつことで、意欲を高められるようにした。



指導の詳細



図1 小中連携による言語活動の設定

研究の成果と課題

1 成果

文字指導では、児童の文字を書く速度や、文字や単語、文を書く際の正確性に向上が見られた。また、児童が「書くこと」でも自分の気持ちや考えが伝わった経験をしたことで、「書くこと」のよさを味わい、意欲を高めることができた。

2 課題

児童の「書くこと」への自信や肯定的な意見が上昇したが、その他の領域とのバランスの取れた指導が不十分であった。文字指導については高学年の2年間をかけて、継続的に行っていく必要がある。中学校との連携は、双方の学校状況や実態に応じて、年間指導計画に組み込むなど、児童生徒にとって充実した連携を行っていく必要がある。



〈小学校 外国語科〉
茂原市立東郷小学校
教諭 渡邊 志乃

(研究主題) 英語音声と文字をつなげる明示的な
音声指導の在り方

～自ら気づき、発音できる児童を目指して～

研究主題について

外国語科の学習では、児童がより深く自分自身のことを伝えなければならなかったり、周囲からの反応を気にしたり、自分の発音を不安に思ったりすることで、英語を話すことに抵抗を感じる児童の様子が伺えた。このような姿から、高学年児童には発達の特徴を踏まえた上での音声指導をしていくことが必要ではないかと考えた。児童が英語音声の基礎である「音素」を理解することで、目標表現を学ぶことができるように本主題を設定した。

研究目標

外国語科の学習において、英語音声と文字のつながりに気づき、英語音声発音の向上を目指して、明示的な音声指導を導入し、その効果を検証する。

授業の概要(第6学年)

1 アルファベットジングル

アルファベットの文字の名前、音、その音を頭音に含む単語を発音することで、正しい音素の発音に意識することをねらいとした。単語の頭音の音素や文字、語末の音素や文字の特定をする活動で、音と文字につながりをもたせるようにした。

2 オンセット&ライムの活動(帯活動)

学習目標である言語材料をシナリオに入れたショートストーリーからオンセット&ライムの言葉を聞き分けたり、チャンツをしたりした。読み書きの指導と連携させるためにワークシートを用いて、聞いた音素に対応する文字を書く活動にも取り組んだ。



オンセット&ライム
ワークシート等

研究の成果と課題

1 成果

明示的に音声指導することで、児童は英語らしさを認識し、英語の音への興味・関心や気づきを深め、音素認識能力の向上につながった。英語の音声と文字をつなげる指導を通して、児童の知的好奇心や探求心を高め、英語への興味・関心や学習意欲につながることができた。

2 課題

音声指導をするための時間の取り方、単元構成、年間指導計画などを見直す必要がある。音声指導は一斉指導を基本としたため個に応じた指導がしきれなかった。児童が躓きを感じやすい「聞くこと」に対する個別の支援の仕方や、どこに躓きを感じているのか観察し、考慮していく必要がある。

令和5年度長期研修生 研究報告



〈教育臨床〉
白子町立関小学校
教諭 佐藤 陽子

(研究主題)「ケース検討学習モデル」の提案

研究目標

学校現場のケース会議の現状と課題を明らかにし、教員が安心してケース会議に参加するための学びの場「ケース検討学習モデル」を作成し、その活用を試み、有効性を検証する。

概念の整理

- (1) 「ケース検討学習モデル」で扱う事例
本研究では、教員の「もやもやとした不全感を残している過去の事例」を「未整理事例」と定義し、それを用いて中堅層教員を対象に「ケース検討学習モデル1」を実施する。学校現場で検討されることが少ない「未整理事例」に再び向き合い、問題を整理することこそ、教員の内省を促し指導力を高め、子供たちへの支援に生かせるのではないかと考えた。また、ケース会議自体に慣れていない若年層教員を対象に、各学校の教育的ニーズを考慮した「架空事例」を用いて「ケース検討学習モデル2」を実施する。
- (2) 見立ての視点
磯邊の「多要因決定論」では、子供の問題は様々な要因から生じており、①個人要因②家庭要因③学校・社会要因の重なりからの視点から、問題の状況を整理する重要性が述べられている。磯邊聡「学校臨床における『みため』千葉大学教育学部研究紀要第65巻」そこで、磯邊の理論に基づいたシートを作成し、活用することで、教員が見立ての意識や意義を体感できるようにしたい。

研究の実際

- (1) 「ケース検討学習モデル」の作成
「ケース会議運営の経験が豊富な教員への聞き取り」と「ケース検討学習モデルに必要な諸要素の検討」の結果を踏まえて9点の留意事項「①事例②テーマ③時間④メンバー⑤事例資料⑥学習要素⑦学習形態⑧ファシリテーターの役割⑨目的や約束の共有」を選定し「ケース検討学習モデル」を作成する。
- (2) 「ケース検討学習モデル」の実施と有効性の検証

成果と課題

- (1) 成果
 - ・「ケース検討学習モデル」における9点の留意事項を抽出し、その有効性を確認することができた。
 - ・ケース検討の際に必要な視点を可視化した分析シートを作成することができた。
- (2) 課題
 - ・各学校の実態やニーズに応じて、扱う事例や分析シートなど9点の留意事項を工夫して「ケース検討学習モデル」を活用していく必要がある。
 - ・「ケース検討学習モデル1」は未整理事例を取り扱うため、運営の在り様により一層の配慮を要する。



学習会資料

教育功労表彰

本年度の教育功労等の表彰において、次の先生や団体が、日頃の教育活動のご功績を認められ表彰されました。心よりお祝い申し上げます。なお、掲載順につきましては、表彰の名簿順とさせていただきます。(敬称略)

- 春の叙勲

瑞宝 双光章	藍野 和郎
瑞宝 双光章	佐川 和弘
- 秋の叙勲

瑞宝 双光章	今井 富雄
--------	-------
- 文部科学大臣優秀教職員表彰

茂原市立茂原小学校 教諭	篠田 淳志
茂原市立東中学校 教諭	田中 仁美
- 千葉県教育功労者表彰
〈教育行政の部〉

一宮町教育委員会 元委員	渡邊 恵之助
--------------	--------
- 〈学校教育の部 個人の部〉

茂原市立萩原小学校 校長	酒井 昌史
茂原市立東部小学校 校長	金澤 勤
- 〈学校教育の部 団体の部〉

一宮町立一宮中学校	
-----------	--
- 千葉県地域防災力向上知事表彰
長生村立長生中学校 防災部
- 千葉県学校体育功労者表彰
長生村立高根小学校 校長 今井 義昭
- 千葉県学校体育優良校表彰
長南町立長南小学校
- 長生地区市町村教育委員会連絡協議会表彰

茂原市立東郷小学校 校長	井上 真弓
茂原市立南中学校 校長	渡邊 安規
茂原市立早野中学校 校長	麻生 久
一宮町立東浪見小学校 校長	伊藤 澄夫
一宮町立一宮小学校 校長	永野 真仁
一宮町立一宮中学校 校長	豊田 武文
長生村立高根小学校 校長	今井 義昭
白子町立白湯小学校 校長	大塚 猛
長柄町立長柄中学校 校長	長谷川 順一
長柄町立日吉小学校 校長	川島 康代
- 茂原市教育委員会教育功労者表彰

茂原市立東郷小学校 校長	井上 真弓
茂原市立萩原小学校 校長	酒井 昌史
茂原市立東部小学校 校長	金澤 勤
茂原市立南中学校 校長	渡邊 安規
茂原市立早野中学校 校長	麻生 久
茂原市立豊岡小学校 教頭	小出 健
茂原市立茂原小学校 教諭	細田 博子
茂原市立二宮小学校 教諭	鈴木 美代
茂原市立富士見中学校 教諭	土屋 久子
茂原市立富士見中学校 教諭	細矢 弘子
茂原市立南中学校 教諭	田中 恵美
茂原市立南中学校 教諭	深山 典子
茂原市立早野中学校 教諭	長谷川 喜一
茂原市立早野中学校 教諭	山中 浩一
- 一宮町教育委員会教育功労者表彰

一宮町立東浪見小学校 校長	伊藤 澄夫
一宮町立一宮小学校 校長	永野 真仁
一宮町立一宮中学校 校長	豊田 武
- 白子町教育委員会教育功労者表彰

白子町立白湯小学校 校長	大塚 猛
白子町立白子中学校 教諭	根本 庄一
- 長柄町教育委員会教育功労者表彰

長柄町立日吉小学校 校長	川島 康代
長柄町立長柄中学校 校長	長谷川 順一
長柄町立日吉小学校 教諭	桑垣 友子